

国立大学法人鹿児島大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿児島大学は、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムの確立等を目標としている。

この目標達成に向けて、学長のリーダーシップの下、共通教育科目を「学士力」に基づいた分類に再構築するため、「補習・導入プログラム」、「人間力養成プログラム」、「学士力向上プログラム」、「専門基礎プログラム」に大別する検討や海外で活躍できるプロフェッショナルに必要な素養等を学び、自分の将来像を描くことを学習目標とした「国際プロフェッショナル概論」の科目開設等に取り組んでおり、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、男女共同参画担当学長補佐を配置するとともに、事務組織として男女共同参画企画係を総務部人事課内に設置したりするなど、男女共同参画推進に向けた組織体制の取組を行っている。また、男女共同参画推進に関する長期（10年）・短期（3年）の行動計画の策定や学内公募によるロゴマークを制定している。

一方、平成21年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成21年度から平成22年度においては90%を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向け、入学定員の適正化に努めることや、入学者の学力水準に留意しつつ充足に努めることが求められる。

財務内容については、科学研究費補助金獲得に向け、獲得実績のある教員の助言講演や採択された研究計画調書をまとめた冊子をウェブサイトに掲載するなど獲得増加に向けて取り組んだ結果、採択件数は419件（対前年度比52件増）、採択金額は7億1,110万円（対前年度比1億4,386万円増）となっている。

その他業務運営については、東日本大震災の被災地支援において、医療救護のために医師、看護師、事務職員等からなる医療支援チームを、検案業務のために法医学分野教員を被災地へ派遣するとともに、医薬品及び医療材料を東北大学に提供している。また、保護者家庭の被災状況に応じた授業料免除等の決定や義援金募集活動等を実施している。物資輸送に関しては、3月23日に水産学部の練習船「かごしま丸」を出航させ、九州の国立大学から提供された救援物資（家庭用医薬品、マスク等生活関連物資、車いす、灯油等）を搬送している。

教育研究等の質の向上については、大学憲章に謳われている「進取の精神」を学生教育に具現化する方策として、鹿児島大学学生としての行動指針や規範となる「鹿児島大学学生憲章」を制定している。この学生憲章は、学生が参加する学生憲章ワークショップにおいて草案を作成するなど、学生が主体となって策定されている。また、山口大学と連携し、それぞれ「共同獣医学部」を設置するため、モデルコアカリキュラムに対応した教育課程の編成や遠隔講義システムを活用した講義等を実現するための検討を行うなど、設置に向けた準備作業を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長と個々の理事が意見交換を行う理事懇談会及び学長・理事のみによる執行部会議を毎週開催し、役員等会議への提案事項等について、先に検討することとしている。
- 寄附講座「焼酎学講座」の研究成果を踏まえ、焼酎・発酵学教育研究センターを平成 23 年度から設置することとしている。また、鹿児島県の地域産業である畜産物を口蹄疫や鳥インフルエンザをはじめとする越境性の動物疾病から防疫するため、越境性動物疾病制御研究センターを平成 23 年度から設置することとしている。
- 「進取の精神」を有し、地域社会及び国際社会で活躍しうる人材育成のため、「進取の精神を有する学士等の育成事業支援」等に学長裁量経費として 1 億 3,000 万円を戦略的に配分している。
- 男女共同参画担当学長補佐を配置するとともに、事務組織として男女共同参画企画係を総務部人事課内に設置したりするなど、男女共同参画推進に向けた組織体制の取組を行っている。また、男女共同参画推進に関する長期（10 年）・短期（3 年）の行動計画の策定や学内公募によるロゴマークを制定している。
- 役職ごとに、求められる能力・重点的に開発すべき能力を示すとともに、役職ごとの理想の職員像を取りまとめた、事務職員人材育成ビジョンを公表している。
- 平成 21 年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、経営協議会の審議の適正化については、適正に審議が行われており、指摘に対する取組が行われている。

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成 21 年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成 21 年度から平成 22 年度においては 90 % を満たさなかったことから、今後、速やかに、定員の充足に向け、入学定員の適正化に努めることや、入学者の学力水準に留意しつつ充足に努めることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が 90 % を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 23 年度予算編成において、部局等の自己収入を原則として 100 %部局等に配分する（収入見合経費の配分率を 100 %とする）こととし、自己収入の増加を図っている。
- 科学研究費補助金獲得に向け、獲得実績のある教員の助言講演や採択された研究計画調書をまとめた冊子をウェブサイトに掲載するなど獲得増加に向けて取り組んだ結果、採択件数は 419 件（対前年度比 52 件増）、採択金額は 7 億 1,110 万円（対前年度比 1 億 4,386 万円増）となっている。
- 財務諸表の損益計算書の一般管理費を対平成 21 年度比で毎年 1 %削減する削減計画を策定し、3,876 万円（対平成 21 年度比 4.2 %）の削減を行っている。
- 職員会館「天心荘」について、利活用状況、維持管理状況を踏まえて施設の廃止及び売却を決定しており、利用状況を踏まえた保有資産の見直しを実施している。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費の削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 第 2 期中期目標の達成状況を客観的にモニタリングする制度（大学運営評価の PDCA サイクル）の検討を行い、中期目標の達成度を測る客観的指標例の策定を行っている。
- 第 2 期中期目標・中期計画を、それぞれ具体的に説明した解説や用語集を織り交ぜ、わかりやすく説明したガイドブック「まるわかり！中期目標・中期計画」を作成し、全構成員に周知している。
- 第 2 期中期目標の前文でも謳われている「進取の気風」について、広く社会に認識してもらうことを目的に商標登録し、「鹿児島大学＝進取の気風あふれる総合大学」と

して広報活動している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 第2期・第3期中期目標期間にわたる施設整備マスタープランを取りまとめ、整備目標を明確にし、自主財源を確保するとともに、大規模なトイレ改修や附属小学校・中学校グラウンド等の整備等を実施し、教育環境を改善している。
- LCC(ライフサイクルコスト)に基づく長期修繕計画では、今後60年間に見込まれる保有施設の所要経費を算定し、今後の施設経営の見通しを明らかにしている。
- 施設の稼働率を分析できるスペース管理システムを構築し、施設・設備の有効活用を推進している。
- 地球温暖化対策の策定方針を定め、地球温暖化対策に関する実施計画を作成している。
- ハラスメント防止に対する意識向上を目的として、ハラスメント防止対策に係るDVD上映会を実施し、ほぼすべての教職員が視聴している。
- 公的研究費の不正や不適切な使用を未然に防止することを目的として、公的研究費の取扱いについて改善計画を策定するとともに、会計手続に係る不正防止ハンドブックを作成している。また、入学試験における出題ミス等の再発防止を目的として、入試業務の改善計画を策定している。
- 東日本大震災における被災地支援については、医療救護のために医師、看護師、事務職員等からなる医療支援チームを、検案業務のために法医学分野教員を被災地へ派遣するとともに、医薬品及び医療材料を東北大学に提供している。また、保護者家庭の被災状況に応じた授業料免除等の決定や義援金募集活動等を実施している。物資輸送に関しては、3月23日に水産学部の練習船「かごしま丸」を出航させ、九州の国立大学から提供された救援物資(家庭用医薬品、マスク等生活関連物資、車いす、灯油等)を搬送している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学憲章に謳われている「進取の精神」を学生教育に具現化する方策として、鹿児島大学学生としての行動指針や規範となる「鹿児島大学学生憲章」を制定している。この学生憲章は、学生が参加する学生憲章ワークショップにおいて草案を作成するなど、学生が主体となって策定されている。
- 山口大学と連携し、それぞれ「共同獣医学部」を設置するため、モデルコアカリキュラムに対応した教育課程の編成や遠隔講義システムを活用した講義等を実現するための検討を行うなど、設置に向けた準備作業を進めている。
- 共通教育科目では、進取の精神を有する学生の育成プログラムの一環として、米国で活躍する事業家、弁護士、教育者、エンジニア等の日本人プロフェッショナルがインターネットを介してそれぞれの経験に基づいた講義を行う科目を開講し、受講生が海外で活躍できるプロフェッショナルに必要な素養等を学び、自分の将来像を描くことを図っている。
- 幅広い観点から地域社会の諸問題解決に取り組む人材を育成するため、大学院修士課程に全学横断的教育プログラム「島嶼学教育コース」を開講している。
- 薩摩藩の伝統的教育制度「郷中教育」を参考に、上級生が積極的に下級生の指導・育成を行うピア・サポート制度「平成郷中サポーター（仮）」の導入に向け、ピア・サポートを考える学生・教職員ワークショップを開催している。
- 学部への巡回就職相談の実施や、求職登録を行っている既卒者に対して本人の希望条件に合致する求人情報を自動的にメール配信するシステムを導入するなど、就職支援体制の充実を図っている。
- 県内企業と協力して製作した超小型人工衛星が H II A ロケットに搭載され打ち上げられ、人工衛星からの電波受信に成功している。
- 血管が詰まって起こる血管性疾患の発症を防いでいるトロンボモデュリン (TM) という蛋白質を薬剤にすることに成功している。
- 鹿児島県内の和菓子店と連携し、学生食堂から排出された生ゴミを堆肥化し、附属農場で有機・無農薬栽培したカボチャを原材料としたエコスイーツを開発するなど、地域社会活性化へ貢献するとともに、環境活動を推進している。
- 国際社会で活躍できる人材育成を図るため、学生海外研修支援事業を制度化し、米国、中国、韓国、ミャンマー、ベトナム、フィリピン、モンゴルに学生 122 名を派遣している。
- 海外ネットワーク構築のため、鹿児島大学の協定大学である中国東北大学及び雲南農業大学（中国）に在籍する鹿児島大学卒業生に対し、「鹿児島大学友好大使」を委嘱している。

- 砂漠緑化研修プログラムとして、学部生と中国東北大学学生が中国内モンゴル自治区において砂の流動を防ぐための植樹等を行っている。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 卒後臨床研修の充実に向けて県内合同研修会の実施やレジデントハウスの整備等に取り組んでいる。

(診療面)

- 病院長を委員長として、医療安全全国共同行動「鹿児島フォーラム」を開催し、多数の参加者を得るなど、医療安全の推進に取り組んでいる。

(運営面)

- 病院全体で在院日数の短縮並びに新入院患者の受入増の取組を行った結果、平成 22 年度は大幅増収を達成するなど、安定的な附属病院運営に取り組んでいる。
- 入院診療単価を著しく向上させており、安定した附属病院経営及び高度な医療の提供を推進している。